

まちづくり懇談会議事録【公開用】

日 時：令和2年10月15日（木）18：30～20：18

場 所：総合福祉センター「しゃるる」

出席者：21人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. これからのまちづくり（資料1参照）

- ・栗山赤十字病院の改築について

4. 懇談

5. その他（情報提供）

（1）新型コロナウイルス感染症対策について（資料2参照）

- ・町民の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料2-1参照）
- ・事業者の皆さんへ新型コロナウイルス感染症の影響に対する支援一覧（資料2-2参照）
- ・新型コロナウイルス感染症の影響に伴う国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（資料2-3参照）

（2）空き家の利活用について

（3）光回線の全面開通について

（4）栗山高等学校と介護福祉学校の状況について

6. 閉会

《懇談内容》

【栗山赤十字病院の改築について】

町民：栗山赤十字病院の改築費用は、今後数十年間の物価変動などを考慮して計算しているか。

町長：近年病院を改築した、他町の建築費を参考にしている。実際に工事を行うのは先になるので、計画よりも金額は上がる可能性がある。町の実質的な負担はなく、国からの補助金と栗山赤十字病院の負担金で改築する。人件費や資材の高騰を踏まえ、金額は45億円

から 50 億円を見込んでいる。町財政への影響がないか、今後数十年の推計をして、改築に踏み切った。

町民：移転する場合、新しい栗山赤十字病院はどこに建てるのか。議会からは角田に移転する案も出ている。今回のまちづくり懇談会であらためて町民の意見を聴くのか、アンケートを取って決めるのか、方法を知りたい。人工透析は新しい設備だが、建て替えの際に移転されるのか。予算額について、栗山赤十字病院の了解を得たとのことだが、栗山赤十字病院の採算性は吟味したのか。栗山赤十字病院が本社から融資を受けるのか、栗山赤十字病院だけで返済するのか。金額が大きいので年数かかるのは分かるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、どこの病院も経営が大変との報道がある。

町長：栗山赤十字病院の通院患者のうち、北部・市街地の患者が 7 割以上。移転先は駅周辺や富士などの候補地もあり、町民からの声も聴いて検討するが、移転する場合は病院解体費 6 億円を町が負担しなければならないので、整備方針としては現地建て替えが有力。この機会に、地域包括ケア・医療・介護の充実のため、移転も含めた議論をしたいが、現地建て替えが現実的。人工透析病棟は平成 17 年に建てられ、栗山赤十字病院の中では新しい施設なので、改築後も活用したい。栗山赤十字病院の年間収支は、黒字の年と赤字の年があるが、近年は安定している。ただし、累積赤字が 30 億円あり、収支の黒字分から出すことはできない。日本赤十字本部や国と相談し、136 床あるベッドの稼働率が 8 割なので、医療需要の減少も踏まえ、ベッド数を 100 床に減らすことを整備方針にしたい。病床数を現実的な数字に下げた場合、国からの交付税が増え、町を通じて栗山赤十字病院に補填されるので、その分を栗山赤十字病院の負担金に充てる。国の制度や交付金を利用し、町と栗山赤十字病院が協力して改築を進めていきたい。

町民：病床数の削減により、交付税はどの程度増える見込みか。

町長：交付税にはいろいろな条件がある。国から町には 7300 万円の交付金が補助されるが、町から栗山赤十字病院に補助を行うことが条件。栗山赤十字病院には 9700 万円ほど補助をしていて、国から 7300 万円が戻ってくるので、実際の負担額は約 2000 万円。よく、町は 1 億円も栗山赤十字病院へ補助していると言われるが、国から町へ約 8 割が交付金として入る。病床数を 100 床に減らせば交付税の率も高くなる。

町民：病床数の割合はどうするか。また、新型コロナウイルス感染症対策として、感染者用の病床を設置するのか。

町長：病床は現在でも約 100 床が稼働している。改築後は 100 床でスタートし、10 年後、20 年後は病床の稼働率は少し下がり、余裕がでてくる部分については、近隣との診療連携や入院患者の受け入れなどで対応をしていくことになる。南空知 4 市 5 町の検討会議なども開かれるので今後議論していく。一般病床と療養病床の割合は、栗山赤十字病院と相談して決定する。南幌町は病状が安定した方が在宅復帰に向けてリハビリテーションを行う、地域包括ケア病床にすべて変更した。これから病床を整備するにあたり、一つの検討材料になる。今後は専門家の意見も聞いて、栗山赤十字病院の経営状況も踏まえ決定

したい。また、栗山赤十字病院は感染対策の指定病院になっていないので、感染者病床は置けない。南空知では岩見沢市立病院しか指定病院はないが、北海道知事が指定すれば感染者病床を置ける。栗山赤十字病院の改築に合わせて検討したい。

町民：外来診療は何日か休めても、入院患者の対応は休めない。栗山赤十字病院の敷地は広いが、前回の建設工事では、日中でも電気をつける必要があるほど暗く、思ったような設計ができなかった。現在の場所では、改築しても使い勝手の悪い建物を設計せざるを得ない。別な場所に移転したほうがいい建物ができる。町民が使い勝手のいい建物をつくってほしい。

町長：選択肢はいろいろあっていいと思っている。国には移転改築であっても解体費の財源措置を新しく制度化できないかという要望を出しているが、なかなか厳しい。いただいた要望を踏まえ、相対的に検討していきたい。

町民：現在の場所に建設する町の方針に賛成。北海道医療センターが移転工事中だが、消音などを工夫して建設している。他の土地を取得する場合や、立ち退きを請求する場合、追加の費用が必要になる。夕張市が財政破綻したときは、最初に夕張市立病院がつぶれ、多くの人が夕張を離れた。同じ問題が栗山で起こってはいけない。費用をできるだけ抑えるよう、第三者委員会などの意見を集約して決定してほしい。地元で医療施設があるほうが安心できる。費用を抑えることで、町や町民の負担を軽減できると思う。

町長：ありがとうございます。

町民：今後の人口減少により町税の収入が減ることを考えると、今の場所に建てたほうがいい。医療用の精密機器は、MRI が最低 1 億円必要で、性能が悪いと聞いている。また、安心して任せられる医師がいないと町民は不安。改築後、新しいうちは患者が来るが、医師や看護師が悪ければ、運営が成り立たない。医師に経営を理解してもらうことで、町の負担も減るのではないか。

町長：策定方針を一つずつ整理する検討委員会をこれから立ち上げ、栗山赤十字病院からも出席してもらおう。雇用について考えるほか、町民からの苦情や要望を病院側に伝え、素晴らしい病院を作りたい。また、医師に過剰な負担をかけない方法をとりたい。栗山赤十字病院の年間約 1100 件の救急のうち、95%は軽傷なので、状況を見ながら救急を控えたりするなど、救急医の負担を減らすことも町民の大事な役割ではないかと思う。また、病院側にも経営努力をしてもらい、いい医師の確保と、いい診療をしてもらえることも大事かと思う。医療機器の話については、担当から説明する。

日赤改築室長：MRI の費用は、栗山赤十字病院の中に入れた際の費用が 1 億円。機械そのものは 5000 万円から 6000 万円。設置費用は建設費の中に含まれる。放射線が漏れないようにする必要があるので予算がかかるが、予算不足により性能が悪いものが入ることはない。

【その他（情報提供）】

町民：夕張市でのクラスター発生は初耳だが、新型コロナウイルス感染症は誰が感染してもおかしくない。栗山はガイドブックも発行するなど、町外の知り合いに聞いても、他の町よりも情報発信が一番早い。だが、町民が安心するため、感染しているかどうか疑わしい時はすぐに検診してもらい、陽性なら隔離してくれるかどうか、情報発信してほしい。発熱外来を栗山赤十字病院が別棟で建てたという噂を聞いたが、岩見沢まで行かなくても、検査してもらえる状況になっているのか。広報折り込みチラシの「日赤外来情報」には発熱外来について載っていない。栗山で感染しても、安心して暮らせる、こういう手立てがあるということを教えてほしい。決まっていることがあれば、配布チラシで情報提供してほしい。

町長：2月の発症から半年乗り切ってきた。栗山赤十字病院は発熱外来と通常の外来を分けているほか、救急の患者と一般の患者とを分けて協力してくれている。町としても、栗山赤十字病院や町内医療機関と連携をして、町内に隔離住宅を6棟用意するなどのコロナ対策を行ってきた。検査体制については、担当から説明する。

日赤改築室長：栗山赤十字病院で検査体制が整う時期は決まっていないが、11月上旬には検査ができるようになる。岩見沢保健所と協力して、抗体検査で陽性が出た場合の流れなどを検討する。これまでは岩見沢保健所に報告するのが義務だったが、市町村単位の相談窓口である受診相談センターが10月下旬までには制度化される予定。受診相談センターは市町村単位・医師会ごとに発熱がある場合の相談窓口になる。入院する場合は岩見沢市立病院で受け入れるが、病床が足りなければ栗山赤十字病院で受け入れられるようになる。

町民：他の町よりも一歩進んで対応してくれていることが分かった。町民に情報が伝わらないと疑心暗鬼になり、栗山のどこかで発症したという噂が独り歩きする。栗山で感染しても、検査・対応してもらうことがはっきりすれば、デマも減ると思うので、情報の周知徹底をお願いしたい。

町民：町内会の回覧板の窓口になったが、町からのチラシを個々の家に手差しするか、回覧で回すのか分からない。指示があれば各戸に手差しで配布するので、町内会と約束を決めておいてほしい。町が判断して指示しないのは、緊急時の対応として問題だと思う。

町長：回覧だけでも10回以上配布した。短い期間での配布に、町内会長・役員の皆さんにはご迷惑をかけた。早めに配布する必要があったが、町からの的確な指示が伝わらなかった。これから同じ事態が起こる可能性があるので、今後も回覧板方式で情報を伝達するときには、今言われたことを検討したうえで、対応をさせていただきたい。

町民：町の情報発信の方法はまだまだ他にありそうなので、勉強してほしい。

町長：今回の非常事態により学ぶことはあったので、反省と経験を次に生かしていきたい。今後は、防災情報を発信するFM放送局の設置も検討している。普及できれば情報発信の手段が一つ増える。これからの情報発信の仕組みを検討していきたい。

町民：町政報告会でもお願いしたが、災害情報などはSNSで情報を発信すればいい。今の情

報伝達や FM 放送局の開設だけでなく、すぐに情報を発信できる LINE 公式アカウントを作成してほしい。詳細は町の URL につながるようにし、町から積極的に呼びかけてほしい。スマートフォンを持っていない人は広報やホームページなどで情報を伝えればいい。防災情報だけでなく、新型コロナウイルス感染症や節水の情報なども知らせてほしい。

町長：非常時に情報をしっかり正確に伝えられるかが、これからの時代は大切。いろいろな世代の方がいて、スマートフォンを持っていない人もいるので、情報発信の手段も多様でなければならない。町内会役員の皆さんには、場合によっては各戸に個別で対応してもらう必要も出てくる。さまざまな情報発信手段を検討したい。

町民：先日の道新空知版に避難所についての記事が掲載されていて、栗山は設備が整っていないとあったが、その後の進捗はどうか。災害はいつ起こるか分からない。

総務課主幹：災害に対する準備は予算化などの対応を進めている。

町民：設備が整ったらいち早く町民に知らせてほしい。水や段ボールベッドの設備が整っていないのは困る。

20：18 終了